midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

７月号の１枚：搬出準備ができた積み木用の間伐材

定例活動400回：「緑のダム」の次なる挑戦

2015年、活動発足後18年目の当会の森林活動は、次のステップに進みます

［1］若者の森つくり（後継者育成）
→名称：「知足の森」に決定
　「小原本陣の森」の森林整備の目途も付いて、当会の拠点のひとつ、「相模湖・嵐山の森」の相模川渓谷の対岸・日照良く風光明媚の与瀬地区の森。時折、訪ね歩いた内に幾人かの知人もでき臨済宗系寺のお和尚さんの寺有林を３番目の「知足の森」として使わせて頂く事になりました。先月５月から、森林整備を始めていますが若者たちはGPSなどを縦横に使い予想を遥かに超えた活動内容の整備を展開中です。
［2］富士源流域からつなぐサプライチェーン構築（森林・林業の復権に向けて）
　「森林破壊と言う負の負債を子孫に残してはならない」と言う共有理念のもと、「源流：富士天上山の森～下流平塚：湘南の森」と相模川流域を繋ぎ７か所の緑のダム運動の森と連携しています。

　「森林・林業の復権」と言う課題は、森林NPOなどでは果たせる事業ではありませんが、相模川源流の富士山が世界遺産になったのを機会に源流地域（富士東部、南都留）、上流地域（大月・北都留の各森林組合）とお近づきになりました。中流域・相模原市緑区で活動している当会は、表題課題を源流域・上流域に提案し協働の方向にあります。南都留森林組合の森林の一部が横浜市管理の水源地であることから下流都市部にもつながる可能性も大であり立ち上げてみようと準備中です。課題が大きいからこそ、取り組み甲斐がありNPOならではの自由で柔軟な発想・実践行動力が生きると確信します。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.07

7月 5日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
　　いずれも弁当持参。参加費：４００円
7月19日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

6月7日（第一日曜日）

紫陽花が大輪の花を咲かせ、雨が続く季節になってきました。小原定例活動では、NPO法人緑のダム北相模の川田さんと小林さん、Forest Nova☆から2名とOBの治田先輩が参加しました。Forest Nova☆では6月21日（日）に相模原市緑区橋本のミウィ橋本で開催される「さがみはら環境まつり」にブース出展する際に使用する木材の準備のために、

メンバーの一部が嵐山での木材加工の作業を行いました。また小原の入山（孫山）では現在の予定として、小原地域のハイキングコースにおよそ15本道標を作成、設置する計画で、先月の小原での活動の際にハイキングコース北口に道標を1本設置し、今回の活動では参加者も少数ということから、全ての道標の作成を目標に活動に取り組みました。参加者3名がそれぞれ文字の下書き、文字の彫刻、墨入れという担当に分かれ作業に取り組み、2月から続いていた道標作成が遂に終了しました。また小原での活動後は、今年度から活動が始まった小原にある長福寺というお寺に向かい、お寺の住職さんと緑のダムの方々とで、今後のお寺にある林内の活動計画について話し合いました。現在の小原の入山のハイキングコースへの道標の設置が完了しましたら、長福時の林内作業も行いたいと考えています。

来月から小原定例活動では、今回作成した道標の設置と共に、8月に相模原市環境情報センター主催で開催されるフォレストキッズスクールで利用する小原の活動拠点周辺の下草刈りや水辺の整理を行う予定です。また入山の作業のために作成した作業道のほかに、もう一つ新しい道ができているというお話を伺ったので、そちらを見に行ったり、夏場でも林内は暑くなってしまうので、水辺で冷やしたトマトやキュウリ等の夏野菜を食べて、身体が熱くならないようにしたいと考えています。

しかし6月上旬から関東も梅雨入りし、活動中での雨も大分予想できるため、各自の雨具の準備や雨道でも滑りにくい靴を履く等、改めて活動の装備を見直し、雨天での活動も無理なく行えるように準備していきたいと思います。

釜谷　優太（Forest Nova）

[定例活動]知足の森

6月7日（第一日曜日）

4月から始まりました相模湖与瀬にある、建長寺派の長福寺の森は「知足の森」というプロジェクト名になりました。知足とは吾唯知足（ワレタダタルヲシル）という言葉に由来があります。足りていることを知る、この禅の言葉にさらに2つの意味を込めています。

一つは現代人が物質的な豊かさばかりを追求してきた反省、今一度、足元に目をやり、地に足のついた生活をしていきたい、という環境教育の視点です。もう一つは緑のダム北相模の活動の中心である森林整備の視点です。我々がどんなに計画、作業しても、森を思い通りに育てることはできません。天候や災害、害虫や鳥獣害にあうかもしれません。それでもそこにある森を受け入れなければなりません。これも禅に通じるところがあると考えています。

この3つの由来をもった「知足の森」の今月の活動は、中高生13名、麻布大の原田先生、石村さんとで境界線を調べる活動を行いました。地主さんから見せていただいた手書きの地図をもとにハンディGPSを持っての踏査を行いました。尾根、沢、放置された広葉樹林（写真・上）など分かりやすい境界線を中心に歩き、データを集めました。長福寺さん所有の森は大きく3つの地番に分かれているので、その一つはほぼ確定できそうです。早速、活動後にお寺で住職さんにデータをお見せし、内容を確認してもらいました（写真・下、アイス食べながらですいみません）。来月からはその区画から作業を始めようと思います。また嵐山でも使用しているArcGISにもデー

タが取り込めればさらにデータが整理でき、地番ごとに施業計画を立てていこうと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

6月21日（第三日曜日）

「春眠暁を覚えず」の季節はとうに過ぎ去ったはずなのに、数年前にしでかした過ちをまたもや犯してしまった。ホリデー快速「河口湖号」での寝過ごしである。相模湖駅をふた駅ばかり通り過ぎ、着いた先は山梨県の上野原。この前は四方津だったので少しはましだが、果たして朝礼に間に合うかどうか。と、ちょうど向かいのホームに上り電車の来る気配が。この機を逃してなるかと急いで駆け込む。時間的には何とか間に合いそう。だが…。焦ったあまり大事なバッグを置き忘れてしまった。中にはお気に入りのジャンパーやお花畑班に届けるはずのミニトマト、シマトウガラシ（小さいが辛さ抜群）のポット苗が数個入っている。飲み物も少々。「うーんバッグはもう諦めようかな。見つからないかもしれないし」と思案しながら嵐山へと向かう。

今日は「相模原市環境祭り」と日程が重なっているため、そちらに出展しているフォレストノバの参加が少ない。それでも参加４２名。高井戸中は顧問の宮村先生がこの春から三鷹二中に赴任されたため、高井戸中OBと二中との合同編成である「地球環境部」として参加。総勢１５名ほど。私は石原会員の教え子２名（首都大学東京OB）と初参加の國弘さん（女性）を森へ案内することに。國弘さんは神奈川県の森林インストラクターの資格を取得中で、たいへん熱心。幾度か質問を受けるが、先にしでかした失敗の余波もあり、頭がぼうっとしていて話がうまくできていないような気がする。年齢？ 寝不足？　それでもいつもの道なき道をたどりようやく嵐山山頂へ。ときどき雨のぱらつく天気なので眺めこそきかなかったが、眼下には相模湖の青い湖面が広がっていた。

昼食後、バッグが見つかったとの知らせが入った。そこで石村さんの了解を得、置き忘れたバッグを受け取りに大月駅までを往復。駅手前では「稚児落とし」の名で知られる岩殿山の岩壁がそそり立つ。かつてよく眺めた風景だけに懐かしい。帰途、地形によるものなのか雨の激しく降るところもあり、嵐山のメンバーの様子が少し気になってきた。

しかし、そんな心配も全くの杞憂に終わった。作業は整然と行われていたのである。お花畑班はこの季節には欠かせない草刈りに邁進。地球環境部もこれまで行ったことのない望星の森の奥でやはり下草刈り。生命の森宣言東京は間伐と材の玉切り、広葉樹の除伐。森林整備班にいたっては「森の積み木」に使うスギ丸太を２ｍに玉切り、皮をむく。計なんと５０本近くをMOMA工房横に運び込んだそうである。たくさん積み木がつくれるぞ。

一方、フォレストノバは少人数ながら材の仮置き場建設の手伝いと地元・桂北小の環境学習のための下見を実施。午後には嵐山リーダーの引き継ぎ（山田君から中島君へ）も行われた。終礼に遅れそうな私だったが、何とか間に合った。というより、皆が到着を待ってくれていたのである。

ろくに働きもせず、何のために嵐山に来たのか分からない一日となってしまったが、森とともに働くメンバーの頼もしさと心の温もりを強く感じることのできた一日でもあった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
上智大学オールソフィアンズフェスティバル報告

５月３１日、毎年恒例の上智大学のホームカミングデーであるオールソフィアンズフェスティバルに積み木で参加しました。今年は初参加の三鷹市立の中学生と常連の杉並区の中学生、さらにその卒業生の高校生、大学生という多様なメンバーでの参加です。中１から大２までという８学年にわたるチームです。なかには中学生のときからこの活動に参加し、ソフィアンになってしまったという強者もおります。今回はアンコールワットと聖イグナチオ教会を製作しました。初めて参加する三鷹市の中学生は杉並区の中学生に教えてもらいながらアンコールワットを、杉並区の中学卒業生で数年来積み木に関わっている生徒は聖イグナチオ教会に取り組みました。卒業生中心ということもあり、事前の試作なし、前日の下見で集めた写真を入れたiPad、いざとなったら現地で確認、という無謀な挑戦でしたが、教会本体と隣の８階建てのビルまで見事に再現できました。アンコールワットも予定通りの完成度でした。今回も通りかかる方からの多くの感嘆の声、写真撮影もしていただきました。

さらに後日、聖イグナチオ教会の教会報７月号にも掲載が決まり、聖イグナチオ教会で配布されております。来年はさらに聖イグナチオ教会の改築前の木造の姿を再現してみたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[報告２]
相模原環境まつり、写真でご紹介します

相模原環境まつりが相模湖・嵐山定例活動日と同日に行われ、Forest Novaが参加しました。今回は写真でご紹介し、来月号にて詳細を報告いたします。

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

山々の緑も、雨に打たれて色濃くなってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。5月31日に、いつも一緒に活動させてもらっている内野さんの実家へ梅の収穫のお手伝いにForest Nova☆ の5人で行ってきました。

この日収穫させていただいた梅の種類は白加賀梅というもので、主に梅酒や梅ジュースなどに用いるために栽培されている品種だそうです。しかし・最近ではこの白加賀梅を使った梅干しも美味であると評判みたいです。

私は、これまで梅の収穫は今までしたことがなく、作業の邪魔にならないか心配でしたが、実際にやってみると作業としては簡単で、素人である私たちが行っても梅を傷つけずに収穫することができました。尚且つたくさん採ることが出来るため楽しく、私たちは暑さも忘れ、夢中になって収穫していました。それと、梅の実がどのくらいの密度で実っているのかあまりイメージできなかったのですが、実勢見て驚きました。それは梅の実がまるで葡萄のように大量に密集して実っていたかです。今回収穫した梅の実は緑色をしているため、初めは周りの葉っぱと区別することが難しかったのですが、やっているうちに区別することが出来るようになり、高いところにある実も枝を引っ張ったり、木に登ったりしてとることが出来たため、殆ど余すことなく収穫できたと思います。

出荷用の梅を収穫し終えたら、内野さんのお父様から出荷用ではない梅を好きなだけ持って帰って良いといわれたので、梅もぎの楽しさもあり私たちは帰りのことも考えずにたくさん収穫しました。そしてその後、予想以上に重くなってしまった荷物に四苦八苦しながらその日の活動を終えました。この日持って帰った梅の実は梅酒と梅ジュースにする予定です。

このような体験はとても貴重なものだと思うので、これからも大切にしていきたいと思います。今回のお手伝いをはじめこれからも、様々な活動をし、色々な人に出会いより多くのことを学び、それらのことをForest Nova☆の活動だけでなく、これからの自分の人生に生かしていけるように努力していきたいと思います。

中嶋　竜太（Forest Nova）

[報告３]
相模湖・嵐山の森、初参加者の感想から

どこにつながりの赤い糸が隠されているのか、わからないものです。ある会で出合った石村すず子さんが時折語られていた森の話。森での音楽会の写真なども見せていただき、ステキだなあ、と思い、世田谷ボランティア協会の情報誌「セボネ」で紹介したくなって、お話を伺いに行きました。石村黄仁さんが静かに語られる言葉から、森や木々のイメージが湧き、やっぱり行かなくちゃ、という気になりました。５月の第三日曜日は絶対に行くぞ、と手帳に書き込み、たまたまわが家に居候していたフランスの若者、そしてアウトドア派の武隈さんの一家を突然に誘い、相模湖へ。相模湖のダムからさほど遠くないところに、「緑のダム」の「基地」は

はありました。「緑のダム」というネーミングがとても気に入っています。森が水を蓄えることによって自然が守られる。ムダなダムではなく、ダムは本来そういうふうに使われなくては、と納得します。たくましい常連の方々は、それぞれに持ち場があってテキパキと動いていますが、何をしていいかわからない初めての私たちを内野さんが嵐山に誘ってくださいました。急な山道を登りながら、樹木、花、虫の名前を教えていただき、頂上へ。下に降りたら、美味しそうなスープが大鍋にもう準備されていました。そして静かな森の中でチェロや笛の音が響き、極上の贅沢な時間が過ぎていきます。午後もワークは続きますが、すず子さん曰く「ここは、何をして過ごしてもいいのよ。仕事に疲れて昼寝に来る人もいるし。」そういうのいいなあ。お言葉に甘えて、周りを歩いて山の三つ葉を採ったり、作業を見学したり、太極拳をしたり、好きなように過ごさせていただきました。武隈家のシゲちゃんとふうこは、木片にヤスリをかけ、ストラップづくりに熱中しています。すっかりハマり、「絶対にまた行く！」と喜んでいました。第三日曜日、なるべく別の用が重なりませんように、と祈ることになりそうです。赤い糸がつながり、お仲間に入れてくださり、本当にありがとうございました！

星野　弥生
（社会福祉法人世田谷ボランティア協会、副理事長）

事務局から＆会員コーナー

●第13期定期総会が無事に終了しました

６月２１日の相模湖・嵐山の森定例活動後、１６時から県立相模湖交流センター研修室にて定期総会を行いました。参加者16名、委任状42名で総会は成立し、昨年度活動報告、収支決算、今年度活動計画、収支予算について全会一致で承認されました。

今年度からは巻頭言にもありますように、相模湖・嵐山の森、小原本陣の森、若者が中心となる知足の森の３つのフィールドで活動すること、サプライチェーン構築のための連携を深めることが確認されました。ほかにも一般社団法人さがみ湖 森･モノづくり研究所、株式会社Forest Infoの活動との連携なども議論されました。

また、これまで会が取り組んできた国際認証の継続についても議論が行われ、これまで通りの活動を継続するが、認証費用の問題から認証は１０年をもって終了する提案もなされました。

今期も緑のダム北相模をよろしくお願いいたします。

※総会の様子は［定例活動］相模湖・嵐山の森、で写真でご覧いただけます

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください
協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版